

神戸市中央区～神戸市東灘区

● 歩行距離 / 9.7km ● 標準歩行時間 / 2時間25分 ※1時間4kmで計算しています



JR三ノ宮駅前にある西国街道案内看板からスタート。JRと阪急・阪神電車の各鉄道と並行するように歩きます。古くからある社寺や遺跡を確かめながら歩くのも楽しいでしょう。また、この付近には地元の方々によって建てられた案内板や道標があり、街道歩きを目安となります。

生田の森 (生田神社)



生田神社の北側に、うっそうとした森があります。平安末期の頃はもっと大きな森で、一ノ谷の戦いに際して平氏はここに東の砦を築きました。神社境内には、一ノ谷の戦いのゆかりの石碑が残っています。

北野天満神社



平清盛が福原遷都を行った際、鬼門の鎮護として京都の北野天満宮を勧請したと伝わっています。異人館街の天神さんとして親しまれ、境内からは市街地を一望できます。

敏馬神社



その昔「敏馬の崎」と呼ばれた高台にあった神社。かつては、この神社の東側に白砂青松の敏馬の海が広がっており、その美しさは万葉集にも度々詠まれました。境内には、柿本人麻呂や田辺福麿の歌碑も建てられており、万葉に縁のある神社としても知られています。

澤之井



阪神電車御影駅そばの高台下にある井戸。神功(じんぐう)皇后が朝鮮出兵の帰りに化粧のために姿を映したことから、「御影」の地名がついたとされています。昭和60年(1985)には、阪神御影駅北側広場の整備にあたって碑が建てられるなど、今なお地域の人々に親しまれています。

本住吉神社



表筒男(うわつつお)命、中筒男(なかつお)命、底筒男(そこつつお)命、神功皇后などを祭神としています。諸説ありますが、ここが住吉三神鎮祭の根源であると伝え、そのために古くから「本住吉神社」と呼ばれています。住吉歴史資料館には、住吉村の古地図や古文書が展示されています。



神戸市立博物館



ドリス様式の円柱が立ち並ぶ新古典様式の建物で、南蛮美術・古地図資料など東西文化交流に関わるコレクションを有する、質・量とも随一の博物館です。国重要文化財を含む所蔵品は約5万5千点で、神戸の歴史を学べます。

開館時間▶10:00～17:00(展覧会により時間が変更となる場合があります。詳しくは、博物館にご確認ください。)
観覧料▶一般:300円、大学生:150円、高校生以下は無料(特別展は別途観覧料あり) ☎078-391-0035

河原霊社 (三宮神社)



一ノ谷の戦いで、生田の森に一番乗りで攻め込んだ河原兄弟を祀ります。その勇猛果敢な戦いぶりは、敵の平氏も感心したと伝わります。

兵庫県立美術館

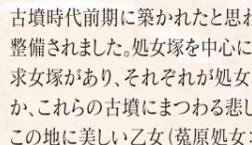


阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして、2002年HAT神戸に開館しました。世界的に著名な建築家・安藤忠雄氏によって設計された建物は西日本最大級の規模。北には六甲山系を、南には瀬戸内海と神戸港の風景を望む美しい環境に位置します。

開館時間▶10:00～18:00(入場は閉館の30分前まで)
入館料▶有料、高校生以下無料(特別展・コレクション展のみ) 休館日▶月曜日(祝日の場合は翌平日)
神戸市中央区臨浜海岸通1-1-1 ☎078-262-1011



処女塚古墳



古墳時代前期に築かれたと思われる前方後方墳で、1985年に遺跡公園として整備されました。処女塚を中心に東西それぞれ約2キロメートルの地点に、東西の求女塚があり、それぞれが処女塚の方向を向いている形になります。そのため、これらの古墳にまつわる悲しい恋の伝説が古くから伝えられています。この地に美しい乙女(菟原乙女:うないおとめ)が住んでおり、多くの求婚者がいましたが、特に熱心だった2人(和泉(大阪府南部)の「血沼壮士(ちぬおとこ)」と地元の「菟原壮士(うないおとこ)」)が武器を持っての争いとなり、乙女は立派な若者を自分のために争わせたことを嘆いて死んでしまいました。2人の若者もそれぞれ後を追って死んでしまい、それを哀れに思った人たちが、後々に語り伝えるために3人の塚を築きました。この伝説は奈良時代の万葉集に登場する歌人たちが歌に詠んでいることから、かなり古い伝説だったようで、平安時代の「大和物語」では2人の若者が水鳥を弓矢で射て乙女を争うストーリーになり、後の時代にも謡曲「求塚」や森鴎外の戯曲「生田川」などとして取り上げられています。

灘五郷



西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷から成り、神戸市灘区から西宮市にかけてひろがる酒造地域。古くから優良酒として知られていた灘の酒の名前は、江戸時代に樽廻船で酒を江戸に運ぶようになって、さらに広まりました。現在でも日本屈指の酒どころとして知られています。